人口問題研究（J. of Population Problems）79－4（2023. 12）pp. 457～462

研究活動報告

第75回数理社会学会大会

第75回数理社会学会大会（JAMS75）は，2023年８月25日（金）・26日（土）の２日間，愛知大学名古屋キャンパスを会場として開催された．会員80名（うち学生14名），非会員33名（うち学生18名）の参加申し込みがあり，活発な議論がセッション後も各所で展開されていたのが印象的であった．自由報告（口頭発表）は３部会11件で，とくに第１部会「ジェンダーと家族」では，日本の結婚市場におけるミスマッチのメカニズムを探るサーベイ実験（打越文弥会員）や，性交渉の頻度と家事分担が幸福度に及ぼす影響についての計量分析（石橋拳会員）など，研究所で行われる調査研究とも深く関わる内容の報告が複数なされていた．

国立社会保障・人口問題研究所からは，毛塚和宏会員が以下の報告を行った．

毛塚和宏・鈴木遼「大学進学選択と経済的資産の関連：損失回避傾向の異質性に注目して」

萌芽セッション（ポスター報告）は45件を数え，これまでの大会と同様に，幅広い研究対象やトピック，手法が扱われていた．著者個人としては，サーベイ実験やオンライン調査，係留ヴィネット法や欠測・測定誤差に基づくバイアスなど，比較的新しい手法や問題系に関する方法論について新たな知見を得ることができ，非常に勉強になった．

次回のJAMS76は，2024年３月に大阪大学で開催予定である．（吉田　航　記）

数学を用いる生物学

統計数理研究所にてワークショップ「数学を用いる生物学」は，2023年８月28日から29日までで開催された．数理モデル研究者と統計を主に用いる実証研究者との交流会である．数理モデルの研究という演繹的な方法を用いた，生態学，進化，個体群動態および人文科学の研究と統計学とう帰納的手法によるこれらの研究テーマのそれぞれ研究者達が自身のテーマに沿って講演を行った．筆者は「多地域レスリー行列の理論と応用～日本の人口減少社会における国内・国際移動の影響～」というタイトルで招待講演を行った．数理モデルの研究者は数学の解析の主張する事が多々あり，実際のデータを知る機会として有意義なものである．一方，統計を用いる実証研究者にとってその背後にある数理モデルの実態や仮定を知る機会となったはずである．こうした交流の場が定期的に設けられる事はより洗練された研究を考える上で必要であると感じた．（大泉　嶺　記）

第33回日本家族社会学会大会

家族に関する社会学的理論や法制度，質的調査，量的調査などに関心のある研究者が集う第33回日本家族社会学会大会が，2023年９月２日（土），９月３日（日）に神戸大学（神戸市）を開催校として完全対面の形で開催された．

初日には，ラウンドテーブル「学会事業としてのNFRJにいま何が求められるのか？」が開催され，オーガナイザーや中堅・若手会員を中心に，学術的公共財としてのNFRJ（全国家族調査）の